The jet and resolved features of the central supermassive black hole of M87 observed with EHT data M. Miyoshi (NAOJ), Y. Kato (RIKEN), J. Makino(Kobe Univ.)



# M 87 (NGC 4486)





2020/1/17 http://www.geocities.jp/milkywayzamanogawa/M87.jpg



#### **ハッブル望遠鏡によるSMBH存在検証観測 (Harms 1994)**

ハッブル宇宙望遠鏡はおとめ座にあるM87を観測、銀河の中心部分のガスの速度を測定、 そのドップラー効果から周辺のガスの運動を調べ、太陽質量の約30億倍の巨大ブラック ホールがあることを突き止めた。 M87は電波や光の観測から、中心からジェットを噴出して いることがわかっている。なお、ハッブル宇宙望遠鏡は数十個の銀河を観測、その巨大ブラッ クホールの質量を測定している。



ハッブル 宇宙望遠鏡 が捉えたジェット



Image: The 23-epoch average radio image of the jet and counter jet in M87 based on data from 2007 and 2008. Angular to linear scales (in parsecs and Schwarzschild radii, RS) are indicated for distances in the sky plane and for distances along the axis of the jet assuming that it is oriented at  $17^{\circ}$  to the line-of-sight. The beam with resolution 0.43  $\times$  0.21 milli-arcsecond elongated in position angle  $-16^{\circ}$  is at lower left. The off-source noise level is 62  $\mu$ Jy/beam; the image peak is 0.83 Jy.

https://science.nrao.edu/science/highlights/images/2018/jet\_formation.jpg



ブラックホール シャドー

#### なお、高橋労太がシャドー形状から、メトリックが計測できることを明らかに(2004)



理論的計算からのブラックホール像(例) ブラックホールそのものは見えないが、その重力による 光の屈折によって、中心部分に暗がりができる。またブ ラックホールの周囲に降着円盤はドップラー効果で左右 の明るさが変わる上、光の屈折(重力レンズ効果)のた め、向こう側の円盤部分がせり上がって、見えてしまう。 http://quasar.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/~fukue/より。

						$\sim$ 5 Rs
	Mass	D		Rs		Shadow Size
$\sim$ 5 Rs	(Msun)	( <sub>kpc</sub> )	(m)	( <sub>au</sub> )	(µ as)	(µ as)
StellarBH@pc	1.00E+00	0.001	2.95E+03	1.97E-08	0.02	0.10
M82	1.00E+06	3700	2.95E+09	1.97E-02	0.01	0.03
SgrA <b>#@</b> GC	2.60E+06	8	7.67E+09	5.11E-02	6.39	31.96
SgrA <b>#@</b> GC	3.70E+06	8	1.09E+10	7.28E-02	9.10	45.48
M31	3.50E+07	800	1.03E+11	6.88E-01	0.86	4.30
NGC4258	3.90E+07	7200	1.15E+11	7.67E-01	0.11	0.53
M87	3.20E+09	16100	9.44E+12	6.29E+01	3.91	19.54

M87 恒星の速度観測から60億太陽質量(Gebhardt 2011)→ Shadow Size 40 µas



電波干渉計

- ・天体輝度分布の空間フーリエ成分をサンプルする。
   全取得データを逆フーリエ変換すれば、像になるはずただし:
- \*取得データは、**較正**が必要。
- \*足りない空間フーリエ成分がある。**工夫**が必要。





230GHz帯VLBI観測から 直径 42±3 µas のリング. 対応質量 (6.5±0.7)×10<sup>9</sup>M<sub>太陽</sub> SMBHのイメージ撮像成功と EHTCは発表 (2019.4.10)

# Data Sampling

THE ASTROPHYSICAL JOURNAL LETTERS, 875:L1 (17pp), 2019 April 10





Figure 2. Top: (*u*, *v*) coverage for M87\*, aggregated over all four days of the observations. (*u*, *v*) coordinates for each antenna pair are the source-projected baseline length in units of the observing wavelength  $\lambda$  and are given for conjugate pairs. Baselines to ALMA/APEX and to JCMT/SMA are redundant. Dotted circular lines indicate baseline lengths corresponding to fringe spacings of 50 and 25  $\mu$ as. Bottom: final calibrated visibility amplitudes of M87\* as a function of projected baseline length on April 11. Redundant baselines to APEX and JCMT are plotted as diamonds. Error bars correspond to thermal (statistical) uncertainties. The Fourier transform of an azimuthally symmetric thin ring model with diameter 46  $\mu$ as is also shown with a dashed line for comparison.

# EHTCの結果:不可解な点が三つある。



較正の不足によって、ジェット成分を見逃してしまった。 ジェット成分を見逃したため、較正が正しい方向に進まなかった。 代わりにデータサンプルのバイアス効果を見てしまった









平行線を引くと、その間隔は40マイクロ秒角くらい。 もしか、サイドローブ(回折像部分)を実像と勘違いしてない?



#### EHTCの結果:不可解な点が三つある。 (3) M87のかの有名なジェットが230GHzでは見えない?

Odiany Mor





# 230GHzで見える構造は 基本、コアとジェット

# ただし、 コアとジェットが分離 コアには内部構造

2019/10/07

# とりあえず、撮像結果から。

#### ・と言うような3点を中心に(他にも疑問 はある) EHTCの報告したリング像は、 大変、怪しく思えた。

・幸い、データーが公開されたので、 データだけ見て、データ較正・像合 成を、独立に行った。(AIPSによる)



リム?が明るい。









Core& Jet Launch Area

コアとジェッ トの明るい部分 が離れている。 類する結果は 以前からある。



50

100 1LLLJY/BEAM











(8~10年周期) Walker2018

Feature	R.A. offset( $\mu$ as)	$\delta$ offset(µas)	Flux Density(mJy)	$T_{\rm b}({\rm K})$
counter jet north	$796.5\pm0.7$	$-113.0\pm0.7$	3.5	$4.1 \times 10^{10}$
counter jet south	$196.0\pm0.7$	$-547.0\pm1.2$	4.1	$2.8\times10^{10}$
core feature 2	$88.0\pm0.7$	$-\ 84.0 \pm 0.7$	15.9	$1.9\times10^{11}$
core feature 1	$1.3\pm0.8$	$1.3\pm0.8$	68.0	$6.1 \times 10^{11}$
jet feature 1	$-1254.5\pm0.7$	$667.5\pm0.7$	14.9	$1.8\times10^{11}$
jet feature 2	$-1863.3\pm0.8$	$1168.3\pm0.8$	27.4	$2.5\times10^{11}$
jet feature 3	$-2506.9\pm7.3$	$1881.9\pm4.9$	45.3	$7.3  imes 10^9$
jet feature 4	$-2625.3\pm1.7$	$399.1 \pm 1.2$	21.5	$6.1 \times 10^{10}$
jet feature 5	$-2706.3\pm5.2$	$1023.7\pm3.4$	68.3	$2.2 \times 10^{10}$
total CLEAN components (720 points)			892.9	

Table 1: Properties of main features: positional offsets from the map phase center in micro arc second, flux densities in mJy, and the maximum brightness temperatures in Kelvin calculated from obtained CLEAN components.

輝度ではコアがジェットより大。が、flux density ではジェット部分の方が大

EHTCの撮像結果の2? 倍程度のflux densityがトータルで拾える



Distance from the phase center position (mas)

### Hybrid Mapping Method

- データに正しい較正を施し、正しい像がほしい。
- 正しい像が既知ならば、修正すべき較正量はわかる。
- •が、不明。像が既知なら観測なんか要らない。
- で、最初、簡単な像(1点源など)を仮定、最小自乗法的に較正量を計算、それを適用し次の像を作り。…と繰り返し、「正しい較正」「正しい像」に迫る方法。像合成ではCLEANなど用い、汚いPSFの影響を取り除くよう努力する。



1-pointモデルによる、 セルフ・キャリブレー ション位相解:

有意に較正残差が見える。 同じ変動を4日間、繰り返 す局あり。局位置誤差?

EHT公開のCalibrated Dataは,完全に 較正が施されたデータではない。 (前段階の較正のみ?)





#### Hybrid Mappingによる 最終セルフキャリブレーション (位相解):



#### Hybrid Mappingによる 最終セルフキャリブレーション (振幅解):



•以下、2つの作例を示す。



The center of the first image in the hybrid mapping process

第1回hybrid mappingにおける像の 中心部分。

Cont peak flux = 3.1365E-02 JY/BEAM Levs = 3.137E-03 \* (-10, -9, -8, -7, -6, -5, -4, -3, -2, -1, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10)



第1回hybrid mappingにおける像合成
(クリーン)を過度
に進めると
リング状の構造が中
心部分に現れる。

(こういう手法でできた像が正しい はずがないが、ともかく、やった)

Cont peak flux = 1.9310E-02 JY/BEAM Levs = 1.931E-03 \* (-10, -9, -8, -7, -6, -5, -4, -3, -2, -1, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10)



Cont peak flux = 2.3232E-02 JY/BEAM Levs = 2.323E-03 \* (-10, -9, -8, -7, -6, -5, -4, -3, -2, -1, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10) 現れたリング状の構造を正しいと仮 定して、像モデルとして使って、セ ルフキャリブレーションを行い、そ の解を用いてクリーンする。 (ただしクリーンを行う範囲を極端 に狭める)

リング状構造が強まって現れる。



現れたリング状の構造を像モデルと して、セルフキャリブレーションを 行い、その解を用いてクリーン。 (ただしクリーンを行う範囲を極端 に狭める)

リング状構造が強まって現れる。

### ただし、クリーン領域を広げて、再度クリーンを試行すると リングは壊れる。

Cont peak flux = 1.6987E-02 JY/BEAM Levs = 1.699E-03 \* (-10, -9, -8, -7, -6, -5, -4, -3, -2, -1, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10)



# 付記:EHTでは30µ秒角より 大きな構造は検出できない。

• まあ、一般にVLBIはそういう性質の観測装置。 (例えば太陽面を観測してもなにも見えない)



像モデル: サイズを変えた 円形ガウス輝度分布



各像モデルに対する撮 像simulationの結果: HPBW=30µasより大に ガウス輝度は見えなく なる。

# 付記:EHTでは30µ秒角より大きな構造は検出できない。

- •まあ、一般にVLBIはそういう観測装置です。 (例えば太陽面を観測してもなにも見えない)
- •(検出できないけど)本当は、M87のこの領域に大きな 構造があるはず。
- ・従って、見える構造はその程度のサイズblob構造であると予想できる。
- なのに....
- もしEHTCが、それに気がつかず、「広く淡くべったりした」ジェット構造を期待して捜索していたら、「ジェットは見えない」と彼らが誤るのは当然の結果。



M87ジェット、 従来のVLBI観測。 そこでは、 ジェットは 「のっぺり」

> 中・下図:43GHz Hada et al. 2011

#### もしEHTCが、それに気がつかず、「広く淡くべったりした」ジェット構造を期待 して捜索していたら、「ジェットは見えない」と彼らが思うのは当然の結果。



Figure 5. The four simple geometric models and synthetic data sets used in the parameter surveys (see Appendix C for details). Top: linear scale images, highlighting the compact structure of the models. Middle: logarithmic scale images, highlighting the larger-scale jet added to each model image. Bottom: one realization of simulated visibility amplitudes corresponding to the April 11 observations of M87. We indicate the conventions for cardinal direction and position angle used throughout this Letter on the upper-right panel. Note that east is oriented to the left, and position angles are defined east of north.

### EHTCはなぜ間違えたか?

- 初期段階でジェット成分を見落とした。
- すると、間違ったモデル像でセルフキャリブレーションを繰り返すことに。(local minimumに、はまり込む)
- 結果、較正は不十分となり、データのコヒーレンスが回復できないまま、
   「暗いリング像」を撮像結果としてしまった。
- ・で、なんで40µasサイズのリングになるかというと、それは<u>データ・</u> <u>サンプリングバイアス</u>が作用したため。
- しかも総勢40名の撮像チームは、1名を除き「M87のBH像は40µas程度の サイズ」と期待してデータに取り組んでいた。(独立の複数のチームと いっても、その性質は共通)。ジェットの研究者や実績ある熟練古手を 含んでいない(ようである)。



赤のドットは、第二次世界大戦で帰還した爆撃機が、機体のどの部分に戦闘ダメー ジを受けていたかを示すしるしだ。帰還率を高めるために、あなたなら防護のた めの装甲板をどこに追加するだろうか? 統計学者、エイブラハム・ウォールドは、 ダメージの "ない" 部分を強化するよう忠告した。データを収集することができた のは、帰還した爆撃機だけであり、ドットがない部分を攻撃された機体は帰還でき なかったということだからだ。

# Data Sampling

THE ASTROPHYSICAL JOURNAL LETTERS, 875:L1 (17pp), 2019 April 10





Figure 2. Top: (*u*, *v*) coverage for M87\*, aggregated over all four days of the observations. (*u*, *v*) coordinates for each antenna pair are the source-projected baseline length in units of the observing wavelength  $\lambda$  and are given for conjugate pairs. Baselines to ALMA/APEX and to JCMT/SMA are redundant. Dotted circular lines indicate baseline lengths corresponding to fringe spacings of 50 and 25  $\mu$ as. Bottom: final calibrated visibility amplitudes of M87\* as a function of projected baseline length on April 11. Redundant baselines to APEX and JCMT are plotted as diamonds. Error bars correspond to thermal (statistical) uncertainties. The Fourier transform of an azimuthally symmetric thin ring model with diameter 46  $\mu$ as is also shown with a dashed line for comparison.



uvd(フリンジ間隔の分布)



40µasリングを撮像 を確実にする空間 フーリエ成分が ほとんど観測され ていない。

右図: Dirty Beam (point spread function) Pointを観測したとき、 データをフーリエ変換して 画像にしたもの



**40μas**リングを撮像 を確実にする空間 フーリエ成分が ほとんど観測されて いない。



右図: Dirty Beam (point spread function) ..... Pointを観測したとき、 データをフーリエ変換して 画像にしたもの



万一、dirtymap(の一部)を初期像モ デルとしたhybridmappingを行うと、 もっと簡単にringが見えてしまう。

- dirty map: データとして得た空間フーリエ成 分を用いて、画像にする。
- PSFと実像のconvolvedされた画像になっている ので、そこには、「データサンプルの特性(バ イアス)」が含まれる。
  - (PSFが点とは大きく違う場合、大変やばい)

DIrty Map7から by Tanaka/Keio Univ. :8''.047	
using CASA on twitter 28'',046	
データサンプリング 28".045	
バイアスはこうして 拾える。 28".044	
<b>Dirty Map</b> から 28''.043	
始めた場合 28''.042	
28".041	
28".040	
'28''.039	9

#### concatWide.im.residual-raster



12<sup>h</sup>30<sup>m</sup>49<sup>s</sup>4237 49<sup>s</sup>4235 49<sup>s</sup>4233 49<sup>s</sup>4231 **Kunihiko Tanaka (x2)** @astrokt2 · 9 時間 EHTデータの最初のフーリエ逆変換イメージ(dirty map)。見事にぐちゃぐちゃですがVLBI ってこんな感じなのか、という感想。視野中心付近に強いemissionが集まってるのだけは わかるのでその辺を雑に丸くマスク



#### concatWide.im.residual-raster



Kunihiko Tanaka (x2) @astrokt2 ·9 時間 「真ん中あたりが明るい」というさっきの仮定が正しいとして位相情報を修正。明るい部 分の拡大図はこんな感じ。集合体恐怖症の人はここで脱落します。



修正ループを続けます。あのあたりに何かリングが、という心霊写真的誘惑に打ち勝って 大雑把なマスクを続けます。視野を大きく横切る斜めの線状の構造が見えますが、細かい 構造が綺麗に点対称分布。明らかに偽物です。

![](_page_61_Figure_0.jpeg)

28".0437

![](_page_61_Figure_2.jpeg)

#### concatWide.im.residual-raster

![](_page_61_Figure_4.jpeg)

Kunihiko Tanaka (x2) @astrokt2 · 9 時間 もう少し続けると明るくなってきた構造があったのでマスクの中心をそちらに移動

![](_page_62_Figure_0.jpeg)

![](_page_63_Figure_0.jpeg)

![](_page_64_Picture_0.jpeg)

concatWide.im.residual-raster

![](_page_64_Figure_2.jpeg)

Kunihiko Tanaka (x2) @astrokt2 · 9 時間 たくさんあった円状の構造は消えて、縞々の幾何学模様が目立ち始めました。ほとんどノ イズと思われますが、明るい点は拾っていきます。ここまでは多分やりすぎなのでもう少 し浅いcleanで止めておくのが大人かもしれません

![](_page_65_Figure_0.jpeg)

Kunihiko Tanaka (x2) @astrokt2 9 時間

たくさんあった円状の構造は消えて、縞々の幾何学模様が目立ち始めました。ほとんどノ イズと思われますが、明るい点は拾っていきます。ここまでは多分やりすぎなのでもう少 し浅いcleanで止めておくのが大人かもしれません

![](_page_66_Figure_0.jpeg)

果とは輪の上の強弱分布が多少結構異なっており、修行の足りなさが露呈しています。この辺は主観がまじるcleanの泣き所でしょうか。

![](_page_67_Figure_0.jpeg)

Kunihiko Tanaka (x2) @astrokt2 · 9 時間 この辺りからは化石職人の慎重さで、目立って明るい点だけにマスクをかけていきます。

実際の EHTデータの Dirty Mapから by Tanaka/Keio Univ. using CASA on twitter	データ・サンプリング・バイアスを ひろって40µasサイズのリングができ た(Dirty Mapから始めた場合)。
3''.0438	
3''.0437	<u>.</u>
3".0436	
3".0435	
3".0434	
8".0433	
Kunihiko Tan そんな場合じ マスクして適	aka (x2) @astrokt2 · 19 時間 ゃない気もするんですが、EHTの公開データで遊んでました。結構ざっくり 当にやってもこれくらいのリングが。いやそんなことやってる場合じゃない
えもりるんど	9万(2四日)

J

#### EHTCの結果:不可解な点の一つ (謎の尻尾、40μas間隔の平行線が引ける。

![](_page_69_Picture_1.jpeg)

#### "データサンプリングバイアス"の見事な例。 サイド・ローブ(回折像部分)を実像に混ぜてしまった。

まとめ

- ・EHTCによる報告「40μasサイズのリング」と「ジェットの resolved-out(消失)」は較正不足とデータサンプリングバイア スが原因のartifacts.
- ・ジェットについて全く新しい観測結果あり。230GHzにおいて、
- 1. ジェットはもちろん存在 (43,86GHzと同じ広がり)
- 2. ジェットとコアは完全分離(途中に暗いgap)
- 3. ジェットのヘリカル運動も検出したみたい。
- 4. コアには少なくとも二つの輝点。Binary SMBH?

注:30µasより大きな構造はEHTでは検出できない。きっと広がった構造が あるはずだけど。230GHzにおいてOptically thin になったのではない。